

新技術名：西洋ナシ輪紋病の感染時期（平成2～6年）
（輪紋病菌の飛散期間と果実感染時期）

普・参

研究機関名 果樹試験場天王分場
担 当 者 深谷雅子

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

西洋ナシ輪紋病菌の柄孢子飛散時期および果実の感染時期を明らかにし、防除適期をとらえる。

○経過と方法

- ① 平成2年から6年にわたり、伝染源のいぼ病斑からの柄孢子飛散消長を調査した。
- ② 平成2～3年にラ・フランス果実の輪紋病菌に対する感受性を暴露法および接種試験により検討した。

○結果の要約

- ① 5年間の調査結果から伝染源からの柄孢子飛散は、概ね6月中旬から始まった。しかし、飛散の終息は年次によって異なり、8月下旬から9月中旬であった。また孢子飛散量は、6月下旬から8月上旬頃まで多かった。
- ② ラ・フランス果実は、6月中旬の幼果期から9月中旬のいずれの時期においても感染し、発病した。特に幼果期に感染すると病斑数が多く、発病程度が甚だしい傾向が認められた。
- ③ 8月中旬以降9月中旬には飛散孢子量が少なくなるが、わずかながらこの時期間にも果実の自然感染が認められた。
- ④ 晩生種のラ・フランスは、柄孢子の飛散する全期間を通して感染が可能であり、注意が必要である。

(2) もたらされる効果

西洋ナシ輪紋病の防除適期が明らかになり、適切な防除対策を図ることができる。

(3) 普及対象範囲

件内の西洋ナシ栽培地域

(4) 普及上の留意事項

特になし

(5) 発表文献等

II 具体的なデータ等

表一 ラ・フランス果実の輪紋病に対する感受性

接種時期	供試果数	接種時の果実の大きさ		発病果数	発病程度 ¹⁾		
		横 径	縦 径		少	中	多
6/19	10	30.6 ^{mm}	39.5 ^{mm}	6	3	0	3
7/ 2	10	39.1	44.8	4	2	0	2
7/19	10	49.7	54.8	6	3	2	1
8/ 1	10	54.3	58.2	4	3	1	0
8/16	10	60.7	66.5	8	6	1	1
9/ 3	10	70.1	72.6	9	7	1	1
9/13	10	72.0	73.1	7	7	0	0
無 接 種	10	—	—	0	—	—	—

¹⁾発病程度 少：病斑数1～3 中：病斑数4～6 多：病斑数7以上

表二 ラ・フランス果実の輪紋病に対する生育後期の自然感染（平成2年）

暴露期間	供試果数	発病果数	降 水 量	降雨日数
8/ 4～ 15	10	2	8.0 ^{mm}	3 ^日
8/15～ 27	10	2	81.0	6
8/27～9/ 3	10	1	16.0	2
9/ 3～ 9	10	1	6.5	3
9/ 9～ 13	10	1	66.0	3
9/13～ 21	10	0	163.0	7
9/21～10/2	20	0	14.0	6

表三 西洋ナン輪紋病菌の柄胞子の年次別飛散状況

年次	初発日	最 多 飛散日	終息日	胞子数 (合計)	飛散期間中の降雨		平均気温(℃)		
					降雨日数	降水量	6月	7月	8月
平2	6.10	7.19	9.18	585	51 ^日	455 ^{mm}	19.4	22.4	24.9
平3	6.10	6.27	9. 7	546	50	549	20.0	21.7	22.5
平4	6.22	7.23	8.20	171	25	239	18.3	22.1	23.7
平5	6.17	8.15	8.23	904	39	348	17.6	20.5	21.1
平6	6.20	7.11	9. 4	1,860	19	182	17.9	23.7	26.3

発行年月	9506	キーワード	159
基礎分類	35	キーワード	
作 目 名	36	キーワード	